



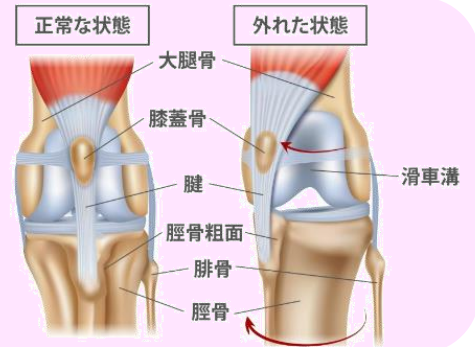
膝蓋骨脱臼（パテラ）について



膝蓋骨脱臼とは



膝蓋骨脱臼は膝にあるお皿（膝蓋骨）が正常な位置から内側あるいは外側にはずれてしまう病気です。



膝蓋骨脱臼の症状

症状がみられないことも多いですが、後ろ足を上げて鳴いたり、スキップのような動きがみられることがあります。



膝蓋骨脱臼のグレードと手術適応

膝蓋骨脱臼は症状により4つのグレードに分けられます。グレードⅡ以上は手術適応とされています。

グレードⅠ	膝蓋骨を指で押すと脱臼しますが、指を離すと元の位置へ戻ります
グレードⅡ	膝の曲げ伸ばしをするか、指で押すと膝蓋骨が脱臼します
グレードⅢ	膝蓋骨は常に外れたままですが、手で押すと一時的に元の位置に戻ります
グレードⅣ	膝蓋骨は常に外れたまま、手で押しても元の位置には戻りません

手術
適応

膝蓋骨脱臼の診断方法

立ったまま、あるいは寝かせた状態で膝蓋骨を指で押し、内側または外側にはずれないか確認します。

触診の様子はこちら▶
QRコードからご覧ください



手術が必要な理由

脱臼を繰り返すことで前十字靭帯断裂と変形性関節症を引き起す可能性があります。膝蓋骨が内側に脱臼すると大腿骨は外側に、脛骨（すねの骨）は内側に捻れます。その動きで前十字靭帯に負担がかかり、中高齢になると15~20%の確率で前十字靭帯断裂を引き起こすと言われています。

＜正常な膝関節＞



＜変形した膝関節＞



手術方法：膝蓋骨内方脱臼に対する一例



●内側支帯切離

膝蓋骨を内方に必要以上に引き寄せようとする筋肉を切り離します。

●滑車溝形成術

膝蓋骨が収まる溝を深くします。

●脛骨内旋制御術

強度の強い糸を腓腹筋種子骨と脛骨に開けた骨孔に通し、関節の外から固定することで膝関節の不安定を無くします。

●脛骨粗面転移術

脱臼に伴い変位している脛骨粗面を切り、膝蓋骨、膝蓋靭帯、脛骨が直線的に並ぶように整復します。

●関節包縫縮

膝蓋骨を包んでいる関節包の外側を切開し、外側に引っ張るように縫うことで膝蓋骨が内側に引き寄せられるのを防ぎます。

手術後の過ごし方、通院

退院後ご自宅では安静に過ごしていただき、術後 10～14 日後に抜糸、レントゲン検査を行います。以降、1 ヶ月毎にレントゲン検査を行います。再脱臼防止のため、レントゲン検査は鎮静下で行うことが推奨されます。また、術後も体重管理、滑りやすい床を避ける、段差の昇り降りをしない、ボール遊びを行わないなどの管理を行ってください。

手術実績

当院では、200 肢以上の膝蓋骨脱臼整復術が行われています。再脱臼率は **5～10%** です。
(術後 3 ヶ月時点での当院成績です。成長期を過ぎて上記の術式を行った場合のデータとなります。)
グレードⅣは病態が大きく異なるため、再脱臼率は上昇します。
成長期は骨孔を開けたり、脛骨粗面転移が行えないため(成長板を障害してしまうため)、再脱臼率は上昇します。
グレードⅠの再脱臼は跛行などの症状がなければ再手術不要です。
術後 3 ヶ月が経っても、平地(特にアスファルト)の上を歩いた時に膝に負荷がかかり、跛行やケンケンなどの症状が出る可能性があります。